（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）

# 平新報

發行日毎月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町二丁目二番地　平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回十錢　堺所指定倍増
定價一部金十錢送料五厘

## 悼惜元和園主人

桐谷文二平

元和園主人とのみでは明らぬ方もあるやも知れぬが、初代の磐城中學校長で平町舊城跡元和園に住せる植竹源太郎先生のことである。氏は舊臘中より病床にありしが去る十一日夕刻遂に歸らぬ旅に立ちたまへり。十四日我同窓舊友等相會して懇ろなる葬をなしたり。當日余は一篇の吊詞を呈したりしに本主幹の懇請止み難く忽卒の際聊か之を修補して紙面に掲ぐることゝした。

### 經歷を語らぬ先生

先生は最も自己廣告をきらい、自己の經歷の如き未だ曾て人に語りし事なく、履歷書の如きも學校にさへ見當らず、最も長く親近したりし馬場君の如きさへ詳しくは知らず、令閨さへも逝去の兩三日前、義弟の見舞ひし折初めて語りしを聞たりと云へる程にて、各種各樣の知己等になせる片言隻語或は斷片的事實を總括せずては其一生涯を知り難き有樣なり。自己を彰はすことは殆ど絶對に忌み嫌ひ其葬儀に關する遺言の際銘旗や墓標に位階勳等を記さず單に元和園主人と書せば足ると云ひたる程なり。されば余の以下述ぶる所も先生の全面をつくしたる者にあらずと知られたし

### 先生と禁酒事業

先生が飲酒の家國の盛衰個人の榮枯にも關することの意外に甚大にして決して等閑に附すべからざるを痛感せられ、盛に禁酒を奬勵せられたるは質に遠く其長埼縣大村中學に奉職せし時に始れり。我國禁酒事業の嚆矢にはあらざるべきも而も最も早き稱道にかゝれり。聞く當時先生の奬勵により今日尚禁酒を繼續せる同校出身の名士少からず、皆其幸福を感謝しつゝありといふ。我が平禁酒會の生れんとす[illegible]や先生進んで參加せられ、指導懇切或は講話に或は個人誘導に努められ効果大に擧り、今や本會は二百數十名の會員を有し近く縣下各禁酒會の同盟會主とならんとするに至れるもの先生の奔走多きによる。吾等今此熱誠なりし好指導者を喪ふ、洵に悲みに堪へず愛に謹で先生の靈を吊す

### 教育界に三十年

先生の家代々越前福井藩士なるも其江戸詰たりしの故を以て先生も江戸に生れ早く父を失ひ、六、七歳の頃祖父母に伴はれて福井に歸り小學を卒へ、尋いで藩校に於て普通學を學びたり。此藩校こそ今の中學組織のものにして英學をも教授したり。これ先頃本朝に渡來せられし米人グリフヒース氏と先生の結び付たる初めにして、當時英邁の春嶽公夙に泰西の學を藩の子弟に教授し新文明を開拓せんとしたる識見に基づけるもの意外に甚大にして決して等閑に附すべからざるを痛感當時御傅教師として理化や英語を教授したりと云ふ。

先生は前後實に三十年間常に謹嚴にして所謂硬教育主義を採りしと雖反面慈父の温情ありて學生をして敬服せしめたり。一面維新當時の志士的態度を稱賛し之にル（燐）を燃燒して妙な手付をなし『お化け』と叫びし時の有樣は幼少なりし先生の腦裡に印し今も尚見る如き心地せらるゝと話されしことあり。又グ氏の邸宅に硝子を用ゐ洋燈を點したるが珍らしく、毎夕小人と云はず大人も其周圍に堵をなせしといふ。先生藩校を卒へて暫く小學校に職を奉じ又藩儒大木氏に漢學を學ぶ。後其小學にて得たる多少の資を懐にして東京に遊學し今の高等師範學校當時の中學師範科に學び、業を卒へて肥前大村藩の設けたる私設の中學校に職を奉じ居ること十年遂に其校長に上げられ幾多名士を育成せらる荒木十畝書伯の如き黒板文學博士の如き皆先生の薫陶を受けしもの、藩公其効を嘉みし米國遊學の資を給せられ、渡米一ヶ年間故ありて歸朝す。偶々病を得て一定の職を斷ちて各地に靜養す。其現在の未亡人を迎へたるは大村中學校長時代か年齡二十八歳の時とか聞及べり、夫人は藩儒大木氏の愛孃たりしなり、夫人の幼弟は即ち今回の葬儀に列し萬端を主宰し曾ては地方長官として令名ありし長野幹氏なり。會々我磐城の地に福島縣中學分校の設立せらるゝに當り其主任として赴任し、獨立校となるに當り校長に任ぜられ職にあること十有五年、頗る强健にして其間一日も欠勤せることなし、恪勤實に努めたりといふべし。其精勵にして克く教育の効果をあげたるの故を以て文部大臣の表彰を受けたることあり。

### 硬教育主義

先生は前後實に三十年間常に學生もありしと雖、其人格高潔にして之を以て難中の難問題となせしが、先生一たび調停の際フオスフホ忘れざりき、古武士の頑固なる風あると共に西洋高襟風の點もありたり、常に皇室を尊崇し義を好み不正を惡むこと甚しかりき、之れ蓋し越前福井藩に於ける横井小楠、松平春嶽公等の遺風の感化を受けしものか。小楠先生を越前に聘せしは實に先生の岳父大木氏が藩公の命を受け遊學の名を以てせしなりと云ふ。先生兒子なきを以て時に家に熟生を置きしことあり曾て某生や單り繪畫に止らず、音樂は卒業式の日多少の飲酒をなしたりとて平素の教訓に背ける者となし、直に證書を返戻せしめたることあり其嚴なるや斯の如し、而も某生の將來を配慮し種々斡旋至らざるなし、其愛や慈父の如し、宜なる哉先生病篤きの報あるやさきに追放に出でたり。社會風教を肅せられし某氏は急遽馳せ來りて未亡人を助け一切の處理をなし以て其高恩に報いる所ありしと云ふ。又曾て一生あり性豪放濶達規矩準繩に入らず、先生之を憂ひて規律嚴正なる軍隊に入らしめ以て其性癖を改めしむるに如かずとなし、家庭に說きて士官學校に入らしむ間もなく此一青年は卒業して有爲の青年將校となりぬ而も優秀の成績にて昇進も早かりしに一日突然先生を訪ひ來れり蓋し軍隊を以て建設の計劃を發表するや自ら强いて職を辭して歸りしなり、先生は一日密かに親近者に告げて曰く『此計若成らずんば中生の訃音に驚き葬儀に參席して至誠を披瀝して吊辭を朗讀せし一紳士は實に其人なりき。先生性直情經行の風ありしを以て往々人に誤解せられし事あり、又其剛直なるがために時に偏狹なる固陋なりと目せられしこともありたり、而も正義に燃ゆる先生の胸中一毫の不正、一點の非曲だに許容し得ざりしなり。されば時に疾風迅雷的面責の厄に遭ひたる會々縣は共濟委員を囑たる會々縣は共濟委員を囑託したりしに時恰も川前村附近に十數年解け得ざりし山林境界問題ありて何人も之を以て難中の難問題となせしが、先生一たび調停の際フオスフホ（燐）を燃燒して妙な手付をなし『お化け』と叫びし時の有樣は幼少なりし先生の腦裡に印し今も尚見る如き心地せらるゝと話されしことあり。又グ氏の邸宅に硝子を用ゐ洋燈を點したるが珍らしく、毎夕小人と云はず大人も其周圍に堵をなせしといふ。先生藩校を卒へて暫く小學校に職を奉じ又藩儒大木氏に漢學を學ぶ。後其小學にて得たる多少の資を懐にして東京に遊學し今の高等師範學校當時の中學師範科に學び、業を卒へて肥前大村藩の設けたる私設の中學校に職を奉じ居ること十年遂に其校長に上げられ幾多名士を育成せらる荒木十畝書伯の如き黒板文學博士の如き皆先生の薫陶を受けしもの、藩公其効を嘉みし米國遊學の資を給せられ、渡米一ヶ年間故ありて歸朝す。偶々病を得て一定の職を斷ちて各地に靜養す。其現在の未亡人を迎へたるは大村中學校長時代か年齡二十八歳の時とか聞及べり、夫人は藩儒大木氏の愛孃たりしなり、夫人の幼弟は即ち今回の葬儀に列し萬端を主宰し曾ては地方長官として令名ありし長野幹氏なり。會々我磐城の地に福島縣中學分校の設立せらるゝに當り其主任として赴任し、獨立校となるに當り校長に任ぜられ職にあること十有五年、頗る强健にして其間一日も欠勤せることなし、恪勤實に努めたりといふべし。其精勵にして克く教育の効果をあげたるの故を以て文部大臣の表彰を受けたることあり。

### 莊嚴を極めた植竹翁葬送

植竹源太郎氏の葬送は本紙既報の通り十四日午後二時自宅出棺長源寺に於て佛式にて執行せるが會葬者多數にて弔電として前田子爵比佐昌平氏其他より數拾通弔辭朗讀者は左の人々であつた

△赤十字石城支部長平町長伏見彦衛▲磐城中學校々友會長唐土齋治　代讀山崎光雄▲磐城中學校同窓會長白井一郎▲大越中佐顯彰會長陸軍少佐齋藤昌光▲大越會長內郷村長　代讀助役金澤爲喜▲美友會長近藤廣記▲桐谷文平▲平町在東京荒川精一▲平町五丁目新妻文吾▲平町禁酒會長馬場豐次郎

### 葬儀會觀靜

植竹先生の葬送に會していたく感じたるは遺言の事ながら香奠や花等をうけなかつた事である、勿論悲食や御茶は出したが故人が禁酒會員の事であり、酒は一切出さず、受附にて會葬者を伺ひたる會々縣は共濟委員を囑託したりしに時恰も川前村附近に十數年解け得ざりし山林境界問題ありて何人も之を以て難中の難問題となせしが、先生一たび調停の際フオスフホ（燐）を燃燒して妙な手付をなし『お化け』と叫びし時の有樣は幼少なりし先生の腦裡に印し今も尚見る如き心地せらるゝと話されしことあり。又グ氏の邸宅に硝子を用ゐ洋燈を點したるが珍らしく、毎夕小人と云はず大人も其周圍に堵をなせしといふ。先生藩校を卒へて暫く小學校に職を奉じ又藩儒大木氏に漢學を學ぶ。後其小學にて得たる多少の資を懐にして東京に遊學し今の高等師範學校當時の中學師範科に學び、業を卒へて肥前大村藩の設けたる私設の中學校に職を奉じ居ること十年遂に其校長に上げられ幾多名士を育成せらる荒木十畝書伯の如き黒板文學博士の如き皆先生の薫陶を受けしもの、藩公其効を嘉みし米國遊學の資を給せられ、渡米一ヶ年間故ありて歸朝す。偶々病を得て一定の職を斷ちて各地に靜養す。其現在の未亡人を迎へたるは大村中學校長時代か年齡二十八歳の時とか聞及べり、夫人は藩儒大木氏の愛孃たりしなり、夫人の幼弟は即ち今回の葬儀に列し萬端を主宰し曾ては地方長官として令名ありし長野幹氏なり。會々我磐城の地に福島縣中學分校の設立せらるゝに當り其主任として赴任し、獨立校となるに當り校長に任ぜられ職にあること十有五年、頗る强健にして其間一日も欠勤せることなし、恪勤實に努めたりといふべし。其精勵にして克く教育の効果をあげたるの故を以て文部大臣の表彰を受けたることあり。

此稿非常に忽卒の間に成り且つ編輯子より刻々急迫せられ再考の餘裕なし非禮寛容をたまへ　以上


五十錢ごとに玉の肌石鹼
引替券さし上ます
ゴム底足袋、ゴム靴、手袋
クツシタ、メリヤスシヤツ
學生洋服、學生カバン、
帽子、小間物化粧品、玩具
平町五丁目
モリタヤ
電話三五三番

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師　關內榮助
電話四〇番

戊辰初頭の一大奉仕
吉例舊二日午前二時より
大奮發の大景品進呈
クスリ　化粧品　計量器　滋養藥品
平町五丁目角
山野邊藥局
藥劑師　山野邊東次郎
景氣の龍本年は各位の御健康上に一層の御留意あらん事を『家庭衛生保健上に關する藥品滋養劑は特に御相談可仕候』

釜屋の初賣!!
廣大無邊の御愛顧に對し
初賣景品は特に奮發仕候
舊正月二日
午前二時より
混雜中時間と御手數を省く
商品券
金拾圓
金貳拾圓
金參拾圓
金五拾圓
金壹百圓
當日限り特に發賣!
何卒御利用下さいませ
奮勵努力の
釜屋商店
電話特長九番
一三九番

平町南町
電話一一二九番
內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

磐城　溫泉旅館
松柏館
電話五番
本宅

吉例大賣出し
舊二日三日四日　三日間
大景品附
特價品豐富に取揃ひて居ります。
なかや洋服店
平町二丁目　電二〇三

日本石油株式會社特約店
營業科目
內外機械油　發動機用油　色油類各種　度量衡器　カーバイト　コールタール　石油乳劑
平町二丁目
清關內油店
關內正一
郡山市驛前
電話郡山十六番　六四〇番
關內油店　郡山支店
支店（茨城縣多賀郡關本驛前油槽所）電話平潟三十七番

一月二十四日（舊一月二日）より一月二十九日（舊一月七日）まで
吉例初賣出し
六日間
福袋一人一ケ限り一圓
■御買上の多少に不拘お早い方には景品の外に玉手箱進呈します
■年頭の御贈答品に亀の優美なる商品券……を御利用下さい
人氣ある買ひよい店
亀中野吳服店
平三丁目　電話六七番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町一丁目
電話三番

# 事業と人物（七）

## 野崎喜八郎氏

オフセ一手販賣タイプ

南洋歸り咲きの

**日進堂支店**

磐中時代野球部のマネジャーとしての人氣男たりし氏は永年南洋方面に活躍して自らハンドルを握つて炎熱燒く樣な南洋の地を馳驅した猛者で同方面では重きをなした人である、目下は平にあつて平自動車商會に在り、一旁ら最近考案された硝子印刷即ち『オフセタイプ』の東北地方一手販賣の權利があるので其販賣に奔走して居られる、オフセタイプは出來上りが石版印刷に似てより感じがよく誰にも簡單に習得出來るので重寶がられてゐる、印刷物を多く使ふ店では必ずオフセタイプ一臺は備ふべきであらふ

## 如來寺住職 鈴木積善師

夏井村如來寺は淨土宗の古刹で曾て本堂に安置された佛像並びに掛軸一幅が國寶となつたので著名であるが同寺に住職たる鈴木積善師は佛敎大學出身の熱烈な信仰をもつ若い僧で流石に衆生濟度を主眼とする佛陀の敎へを体得したので近頃形式にのみ囚はれ單にお經を讀む丈の僧侶とは違つて敎化事業に一日として休まる日はない、或は青年子女の爲めに『菩提樹』會『無憂樹』會を起こし、或は青年の禁酒運動を起すなど實に強い信仰の元に勇敢に活動されてゐるがかく多忙のうち景品なども買物の多少をちに新思想の吸收に余念なく絶えず上京しては勉强に

## 甘納豆製造元 日進堂支店

平田町通り角の『日進堂支店』は菓子舗として氣持ちよい店構へ、そして味のよいのと安いので人氣がよい店主島田勝吉氏は軍人上りで無口な人であるが非常に研究心に富んだ凝り性で毎日注文品や店賣りのお菓子を造る旁ら新らしいお菓子の製法研究に余念がなく職人も渡り者は一人も使はず和氣藹々のうちに樂しそうに仕事に一生懸命であると店の方は專ら女將が預つてゐるが主人の薄利多賣主義をよく呑込んでお客樣には親切叮嚀で愛嬌よく實に好印象を與へるので評判がよい、同店製造の『甘納豆』は日進堂自慢丈に味と云ひ出來工合と云ひ桑太郎に比べて更に遜色がなくお客用贈答用に好適品である。

怠りない。

## 吉例舊初賣り 買初めの客にて一大商戰場と化す 平の二日市

### 各商店の景品附商ひ振り

近年舊年末賣出しが流行し來りたるも昔から吉例たる二日の賣り初めには如何なる店にても景品附にて大勉强する、買ひ手も朝の暗いうちから滊車のない所は三里も四里も歩行にて參集し來り、これぞ押すな〳〵の大盛況を呈するは二日市である、農村に於ては年末大賣出し福引よりも買初めで緣起を祝ふのでまつたく夜通し歩つて買物に來るので各商店でも其御愛顧に報ゆるのは當然として居る、如斯年中行事は此地方のみの好慣例で今後とも永續させたいものである、今各商店の二日市の用意をみるに

**北海屋**

二丁目の同店は、乾物塩鮭專門で大抵は年末に揃へられるものゝみの樣であるが尙毎日の炊事當番の必要品であるから景品もその方面に用ひらるゝ樣と用意され前夜は殆んど寢ずに二日の朝まだき威勢よく賣出すと

**西村屋藥舗**

二丁目同店は平常より大勉强の商ひ振りであるが殊に吉例買初めには破格勉强をされてゐるが多忙のうち景品なども買物の多少を込みである。

**清光堂書店**

二丁目の同店では辰年の一大奮發にて永年倉庫に藏したる書籍雜誌其他を藏拂ひ的に五錢拾錢貳拾錢と三種に別ちての奉仕的大勉强僅か五錢にて十冊もあるものもあり敎育者は勿論學生讀書家諸君の參考となるべきもの多く、何は兎もあれ老舗として著名店たる同店の藏拂ひ此の際見逃すべからすであらふ。

**關内油店**

二丁目關内油店は電燈が完成された今日一般の人には少し緣が遠くなつたが科學文明發達は益々同店の繁忙となりそが爲め吉例買初めには奉仕的に大奮發の景品進呈をするので準備に忙殺されてゐる。

**なかや洋服店**

二丁目同店は恒例買初めに平素の御愛顧に報ゆる爲當日二日は勿論三四日と三日間景品附賣出しをする大勉强振り洋服二重廻何でも幾種類もあつて待つたなしで買へるので大變に都合がよいのである

**中野吳服店**

三丁目丸龜中野吳服店は珍柄流行品を初め持價品を山と積んでお客樣を待つてゐる、本年の流行品の魁をする大覺悟お客樣も龍頭蛇尾に終らぬ樣永く御愛顧をと云はんばかりの大奮闘振りである

**マルトモ 柴田書店**

例年の通り特價品滿載の由特に目立つものは洋半紙五帖一束拾錢二十錢、セルロイド筆入二十五錢より御大典紀念鉛筆一打二十錢等々數ふべからず定めし身動き出來ぬ盛況であらう。

**伊勢屋商店**

四丁目の同店は荒物類で聯合賣出しのあとすぐ初賣りなるので町長の椅子は早く政爭の具に供せられんとしてゐる、もと高木氏は政友會系の人として兎角專横の振舞ありとて非難されてゐたのを奇貨として民政黨の吉田五平氏は自黨御用新聞記者と稱する○○氏と策つた、擅當醫は仙臺醫大小向醫學士並びに平局嗣托高久病院長高久醫學士で當日同病院よりは看護婦數名を派遣し成績頗る良好であつたが何時もながら高久院長の懇切な取扱ひは卓越なる技倆と相俟つて非常に好感を與へた。

**關内藥舗**

四丁目の同店は新人を店主とするだけあつて何事によらず明るい商ひ振りで吸入用酸素、酸素吸入器は縣るとか、辭任とも決定せぬ今日氣の早い人々であると街の噂さそのまま……

## 辭任とも決定せぬ 湯本町長に

### 若松縣議を催さんとする 吉田君と某旬刊社長及び湯本町民派某氏等の策動

湯本町長高木巳之吉氏は問事實とすれば目下地下採堀題の中心となり紛爭の絶間問題で行政訴訟の從參加中なかりしが愈々滿期改選となるので町長の椅子は早く政爭の具に供せられんとしてゐる、もと高木氏は政友會系の人として兎角專横の振舞ありとて非難されてゐたのを奇貨として民政黨の吉田五平氏は自黨御用新聞記者と稱する○○氏と策つた、擅當醫は仙臺醫大小向醫學士並びに平局嗣托高久病院長高久醫學士で當日同病院よりは看護婦數名を派遣し成績頗る良好であつたが何時もながら高久院長の懇切な取扱ひは卓越なる技倆と相俟つて非常に好感を與へた。

## 關内甚平君 騎兵として入營

平五町目角の同店は快活で座談の雄辯家を以つて人が任じて居る通りなか〳〵の辯達者舊初賣りには効能述べで煙に捲く事であらう五寸太郎氏長子甚平君は仙臺第二聯隊騎兵隊に入營する事となり二十三日午前八時五十分に出發す因みに同君のために二丁目青年及び町内有志は去る十八日夜谷口に於て送別の宴を張り出席員五十余名盛會であつたと尙ほ同君は柔道初段前途ある有爲の若者である。

## 關内油店 郡山市に支店設置

平町二丁目關内油店では業務擴張の爲郡山市驛前通りへ支店を設ける事となつたが此程愈々開店されたので今後は同地方の自動車其他油の使用者に益する處多いであらふ。

## 釜屋商店

五丁目釜屋商店では舊年末中より吉例買初めの用意はされてゐたが當日は平常出入の人迄總動員してそれぞれ手別けして準備された賣出し振り賣に目覺しいものであらふ

## 山野邊藥局

平町二丁目青年分團『鴻久會』會長は根本善吉氏の處今回改選小松崎善之助氏新任したと。

### 鴻久會々長 小松崎氏

平町二丁目清光堂書店關内△御代未鶴氏　縣立安積女學校敎諭御代未鶴氏は今般縣立安達中學校へ轉任された、因に氏は磐中同窓で磐崎村岩ケ岡出身である。

## 人事消息

◆玉川の喜代治姐さん舊臘末人生を達觀して東京行を志し、急行にて實家行、親元の不承認にて古巢へと中歸り相變らず否な相變りの勤め振り新正には丸髷姿で寫眞撮り、ナル程丸髷結ひたいでせうね……心ある人○町の○○さん早く丸髷にしてはどうです

◆開花の半玉○○子は身長と申し○歸りと申し一本の仕事はやる……一本のシカクあるウワサである

◆仲家の小猫は一本になつて良いのにどうして一本にせぬでせう聲と申し歌と申し堂々たるものだが身長が足りぬからだと、併し足りる所足りたらよからう稅金は同じ事だ早く一本にする事だ然し小猫は半玉の方がヂウチある相だ、

◆仲町某役所のブルドック○長なか〳〵發展する、此の將ありて其の部下あり、酒屋や○○をイヂめるカスが遊興費とはアキれてものが言へぬテこれも釀造業者の夕、リか

◆若い○○辯護士の發展振りはススまじいものだ、トリタテ依託金でも支拂つてからにしたらどうです立派な業務横領テナ事は御存じの筈である

◆いつもながら南町酌婦連が通行人を呼び止めミダラな處行は甚だ怪しからぬ事で道路でキッス、袖ヒキ、

## 一日市にスリ、萬引警戒を要す

舊二日初賣り買ひ初めには人出が多く混雜にまぎれてスリ、萬引が横行する長れあるので當日其筋では非常警戒を密にすると召集して警戒の事なれば一般人各商店には相當警戒して事を未然に防ぐべきである。

## 雙相巡訪記

◆長谷川。藤田◆

第一日「十六日」朝平出發先ず振出しに廣野驛に下車磐中出身根本一良氏を訪れ氏に道順を聞いて同村役場を訪問村長佐藤末吉氏に熱切なる贊援を受け小學校に向ふ校長木田茂平氏に終らぬ樣永く御愛顧をと云はんばかりの大奮闘振りである

**マルトモ 柴田書店**

例年の通り特價品滿載の由特に目立つものは洋半紙五帖一束拾錢二十錢、セルロイド筆入二十五錢より御大典紀念鉛筆一打二十錢等々數ふべからず定めし身動き出來ぬ盛況であらう。

**伊勢屋商店**

四丁目の同店は荒物類で聯合賣出しのあとすぐ初賣りなるので町長の椅子は早く政爭の具に供せられんとしてゐる、もと高木氏は政友會系の人として兎角專横の振舞ありとて非難されてゐたのを奇貨として民政黨の吉田五平氏は自黨御用新聞記者と稱する○○氏と策つた、擅當醫は仙臺醫大小向醫學士並びに平局嗣托高久病院長高久醫學士で當日同病院よりは看護婦數名を派遣し成績頗る良好であつたが何時もながら高久院長の懇切な取扱ひは卓越なる技倆と相俟つて非常に好感を與へた。

**關内藥舗**

四丁目の同店は新人を店主とするだけあつて何事によらず明るい商ひ振りで吸入用酸素、酸素吸入器は縣るとか、辭任とも決定せぬ今日氣の早い人々であると街の噂さそのまま……

## 文藝募集

榮助君にしても同樣なれば時！學年末を控へて敎育界劃時の秋……右兩者に對する嚴正批判は從來十分の探訪をなし居たれば次號に發表する事と決した要するに敎育者が口に正義！心の鍛練を敎ゆれども自ら利財をこれ事とし、くだらなき雜誌等を刊して廣告を强要し等々賣名的な名實備はらざる藤田校の經營振りを忌弾なく紹介する迄である

## 佐藤三郎氏 川前村長代理

川前村々長は永山德一氏滿期辭任後未決定なるが去月二十七日より佐藤三郎氏村長代理として事務を取扱ひつゝありと、因みに氏は磐中出身である。

## 關内藥舗

◆本紙が常に不偏不黨の筆硯を採る事は自ら信じて居るものである、前號の『事業と人物』に磐中同窓の先輩たる比佐昌平氏をものして居つた。然るに政黨的に反對の位置に在るものは大分難じて居つた、比佐氏の美點を彰してどこが惡いのだ比佐氏としても神樣でないから缺點なしとは申さぬ、筆者は政友會の人にも好きな人あり、民政黨にもある又兩派中に惡むべき輩がある、こは人物本位なのである、決して頗かぶりはやらぬ、政黨屋否な一部の人々の機關紙でない事を斷言して置く、已れはめられれば喜び對者をほめゝゝば筆者を攻擊する人々の心事が解せぬものである、筆を採るものは須らく公明正大破邪曲正斷々乎たる筆を進めねばならぬものである此の見地より筆者は何人の掣肘をも受けたくない諸君！今少し心を大きくもち給へ、四海波これ同胞だ今や昭和維新の秋大同團結して進め、廻れ右

◆磐中校敎頭山崎光雄氏が敎頭として適任なるか否な不人氣にて評判良しからず、一般から非難されつゝあり筆者も亦氏が敎頭として批判をものするを豫告し、そのまゝものせざるについて何か買收でもされし如く噂さしつゝあるを耳にするがかくの如きは絶對になく、筆者甚だ迷惑する事にて、又藤田女學校々長の藤田敵は大平洋の彼方に在り

## 關内藥舗

四丁目の同店は新人を店主とするだけあつて何事によらず明るい商ひ振りで吸入用酸素、酸素吸入器は縣るとか、辭任とも決定せぬ今日氣の早い人々であると

## 關内油店

郡山市に支店設置

平町二丁目關内油店では業務擴張の爲郡山市驛前通りへ支店を設ける事となつたが此程愈々開店されたので今後は同地方の自動車其他油の使用者に益する處多いであらふ。

## 鴻久會々長 小松崎氏

平町二丁目青年分團『鴻久會』會長は根本善吉氏の處今回改選小松崎善之助氏新任したと。

## 關内甚平君 騎兵として入營

平町二丁目清光堂書店關内△御代未鶴氏　縣立安積女學校敎諭御代未鶴氏は今般縣立安達中學校へ轉任された、因に氏は磐中同窓で磐崎村岩ケ岡出身である。

## 人事消息

◆玉川の喜代治姐さん舊臘末人生を達觀して東京行を志し、急行にて實家行、親元の不承認にて古巢へと中歸り相變らず否な相變りの勤め振り新正には丸髷姿で寫眞撮り、ナル程丸髷結ひたいでせうね……心ある人○町の○○さん早く丸髷にしてはどうです

◆開花の半玉○○子は身長と申し○歸りと申し一本の仕事はやる……一本のシカクあるウワサである

◆仲家の小猫は一本になつて良いのにどうして一本にせぬでせう聲と申し歌と申し堂々たるものだが身長が足りぬからだと、併し足りる所足りたらよからう稅金は同じ事だ早く一本にする事だ然し小猫は半玉の方がヂウチある相だ、

◆仲町某役所のブルドック○長なか〳〵發展する、此の將ありて其の部下あり、酒屋や○○をイヂめるカスが遊興費とはアキれてものが言へぬテこれも釀造業者の夕、リか

◆若い○○辯護士の發展振りはススまじいものだ、トリタテ依託金でも支拂つてからにしたらどうです立派な業務横領テナ事は御存じの筈である

◆いつもながら南町酌婦連が通行人を呼び止めミダラな處行は甚だ怪しからぬ事で道路でキッス、袖ヒキ、

## 雙相巡訪記

◆長谷川。藤田◆

第一日「十六日」朝平出發先ず振出しに廣野驛に下車磐中出身根本一良氏を訪れ氏に道順を聞いて同村役場を訪問村長佐藤末吉氏に熱切なる贊援を受け小學校に向ふ校長木田茂平氏に終らぬ樣永く御愛顧をと云はんばかりの大奮闘振りである

**マルトモ 柴田書店**

例年の通り特價品滿載の由特に目立つものは洋半紙五帖一束拾錢二十錢、セルロイド筆入二十五錢より御大典紀念鉛筆一打二十錢等々數ふべからず定めし身動き出來ぬ盛況であらう。

**伊勢屋商店**

四丁目の同店は荒物類で聯合賣出しのあとすぐ初賣りなるので町長の椅子は早く政爭の具に供せられんとしてゐる、もと高木氏は政友會系の人として兎角專横の振舞ありとて非難されてゐたのを奇貨として民政黨の吉田五平氏は自黨御用新聞記者と稱する○○氏と策つた、擅當醫は仙臺醫大小向醫學士並びに平局嗣托高久病院長高久醫學士で當日同病院よりは看護婦數名を派遣し成績頗る良好であつたが何時もながら高久院長の懇切な取扱ひは卓越なる技倆と相俟つて非常に好感を與へた。

**關内藥舗**

四丁目の同店は新人を店主とするだけあつて何事によらず明るい商ひ振りで吸入用酸素、酸素吸入器は縣るとか、辭任とも決定せぬ今日氣の早い人々であると街の噂さそのまま……

## 文藝募集

榮助君にしても同樣なれば時！學年末を控へて敎育界劃時の秋……右兩者に對する嚴正批判は從來十分の探訪をなし居たれば次號に發表する事と決した要するに敎育者が口に正義！心の鍛練を敎ゆれども自ら利財をこれ事とし、くだらなき雜誌等を刊して廣告を强要し等々賣名的な名實備はらざる藤田校の經營振りを忌弾なく紹介する迄である

しがみつき其筋では何故にして長塚に向ふ、長塚村女學校にて校長岩東マス子女史に會ふ、次は双葉中學校を訪問す、戻り道磐中三回の半谷醫院長半谷氏を訪る、氏は松湖又は衛山の號あり醫專卒業後徐暇書畫を揮毫するを唯一の樂しみとして書は近藤雪竹先生に師事して其の研究を極む、曾ては報知選書會大東墨書會美術協會書道作振會等に於て賞狀褒狀を受けし事十數回に及ぶ、畫は柳田斗墨鈴木雨溪先生に習ひ墨竹は特に得意なりと聞く又同氏宅に於て同じく磐中出身渡邊壽重氏に面會す氏は目下新山小學校長の由で十時十分同氏宅を辭す午前十時四十一分發浪江に向ふ第一線に土地の實業家上田善次郎氏を訪問……磐中出身印刷業大塲次郎氏を訪る、同氏宅より小學校に參り校長柳田德實氏に面會す、氏は名の如く溫良篤實な敎育家として親しみのある人である暫らく御話を承り午後一時半辭して浪江銀行組合を訪問後當地は雨にて訪問困難な爲驛前白木屋旅館へ……

第四日「十九日」朝浪江驛八時發列車に乘車中村に向ふ相馬女學校にて同校敎諭鈴木久義氏磐中出身に面會氏の照會にて相馬中學校敎諭荒七三郎氏『磐中第三回』に面會す驛前に返り齋藤澤氏を訪る氏宅にて色々と御配慮を賜り十二時四十二分大野驛發列車にて長塚に向ふ、長塚村女學校にて校長岩東マス子女史に會ふ、次は双葉中學校を訪問す、戻り道磐中三回の半谷醫院長半谷氏を訪る、氏は松湖又は衛山の號あり醫專卒業後徐暇書畫を揮毫するを唯一の樂しみとして書は近藤雪竹先生に師事して其の研究を極む、曾ては報知選書會大東墨書會美術協會書道作振會等に於て賞狀褒狀を受けし事十數回に及ぶ、畫は柳田斗墨鈴木雨溪先生に習ひ墨竹は特に得意なりと聞く又同氏宅に於て同じく磐中出身渡邊壽重氏に面會す氏は目下新山小學校長の由で十時十分同氏宅を辭す午前十時四十一分發浪江に向ふ第一線に土地の實業家上田善次郎氏を訪問……磐中出身印刷業大塲次郎氏を訪る、同氏宅より小學校に參り校長柳田德實氏に面會す、氏は名の如く溫良篤實な敎育家として親しみのある人である暫らく御話を承り午後一時半辭して浪江銀行組合を訪問後當地は雨にて訪問困難な爲驛前白木屋旅館へ……

第四日「十九日」朝浪江驛八時發列車に乘車中村に向ふ相馬女學校にて同校敎諭鈴木久義氏磐中出身に面會氏の照會にて相馬中學校敎諭荒七三郎氏『磐中第三回』に面會す驛前に返り齋藤澤氏を訪る氏宅にて色々と御配慮を賜り十二時廿五分中村發原町へ返る驛前松永篤次郎氏訪問、氏は文化事業に理解ある所の色々說明せられ原の町に當地發刊新聞の無い事をうれいて本紙の寄贈を感謝して居られた辭して農蠶學校に午來不二男氏を訪れ午後四時三十六分原の町驛發廣野迄歸り驛前大廣屋旅館一泊

第五日「二十日」旅のつかれを休める驛前の大越三吉氏を訪れて折木に向ふ折木は有名な鑛泉旅館、鶴屋にて種々もてなしをうけ再び廣野に向ふ廣野驛六時二十三分發にて歸社す


お待ち兼の
一日市
景品の海
特價品の山
マルトモ 柴田書店
平町四丁目
電話二三四番

舊正月二日初賣景品進呈
平町三丁目
荒物商 伊勢屋
電話四五番

吉例舊二日景品附初賣
荒物商 大一屋
平町二丁目
電話一三番

祝平新報發展

常磐工業株式會社
植田町

安藤木炭店
川前驛前

日本生命保險株式會社
平代理店主 中野甲藏

佐藤末吉
双葉郡廣野村長

福田司
双葉郡廣野驛前醫師

相馬や酒店
双葉郡富岡町

秋田齒科醫院
双葉郡富岡町

大原勇
双葉郡富岡町

新妻酒店
双葉郡富岡町

早川清久
双葉郡富岡町

吉岡善一
双葉郡熊町村

縣立双葉中學校
双葉修齊女學校長
岩東マス

景品大奮發
海産乾物商シホビキ、スルメ、其他
平町二丁目
北海屋
電話八〇九番

半谷松湖
双葉郡新山町醫師

渡邊壽重
双葉郡新山小學校長

上田善次郎
双葉郡浪江町

大塲次
双葉郡浪江町

柳沼德實
双葉郡浪江小學校長

双葉郡浪江銀行組合

荒七三郎
相馬中學校

鈴木久義
相馬女學校

齊藤澤
相馬郡中村町

松永篤次郎
相馬郡原之町驛前

午來不二
相馬郡原之町農蠶學校

大越三
双葉郡廣野驛前

折木鑛泉
双葉郡廣野村
鶴屋旅館

知識の藏解放（舊正日の初賣より）
永年倉庫に藏したる圖書類を均一値段にて奉仕販賣を致します
五錢十錢二十錢の三種に分ち平素の御引立に酬ひます
清光堂書店
平町二丁目　電話一三一番